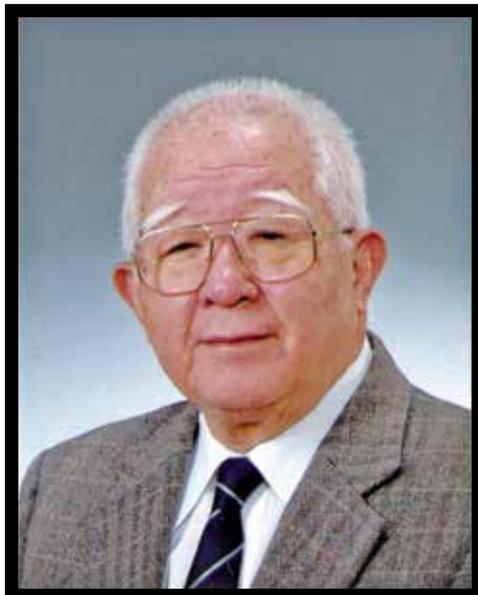


追悼 江間誠一郎マスターを偲ぶ



坐 辺 師 友

国際歯科学士会日本部会理事 小坂橋 誠

江間先生、突然の悲報 残念です。

昨年12月26日朝7時1分にお嬢様の緑先生からお電話を頂戴いたし、「父が亡くなりました」と言われ、それに答える言葉が出てきませんでした。こみあげる涙で詰まっしまい、今現在でも何を話したのか思い出すことができません。

先生との出会いは私が大学4年の時、補綴科の担当の先生でありました。それから53年間、人生に医療に薫陶を受け、現在に至っていました。こんなに早く逝去され、ご指導を受けることができなくなるとは思っていませんでした。ただただ残念でたまりません。

昨年12月12日にICD日本部会の仲間と新橋駅前の「大衆酒場 新橋三州屋」で一献のときのエピソードですが、お店の女性店員さんがまざまざと先生の顔を見て、「ニコニコ顔で恵比寿様のような方ですね」とおっしゃいました。そこで先生が店員さんに今日、宝くじを買いなさいと言っていました。もしかして当

たったかもしれません。この時、3人で焼酎500ml 2本を飲み元気はつらつだった先生がこんなに早く亡くなるとは信じられません。

天国でえびす顔を皆に振る舞っていることでしょう。



創業160年 鶯谷 超老舗「鍵屋」へ
2013年3月28日ICD日本部会会長会議終了後
飲みに行った写真です。
よく食べ、よく話し、よく聴き、よく笑い、よく飲んだ53年間
江間先生、感謝！

私が開業するとき先生から「3つの『ない』」を心掛け、「3つの『勉強』」をなさいと言われました。

「3つの『ない』」は

「欲しがってはいけない 断ってはいけない
見せびらかしてはいけない」。

「3つの『勉強』」は

1つめが今の仕事に役立つ力をつける勉強。
2つめは今の仕事に役立たないかもしれない勉強。
将来、別の職業に就いたり、外国に行ったり

するとき役立つかもしれない。ただしそれは密かにやっておくものである。

3つめは何も関係ないと思われる勉強。これは人間を豊かにするものである。

そして最後に、「人より1分間だけ余分に努力なさい」と言われました。

53年間にわたりご指導ご教授いただき、感謝の気持ちでいっぱいあります。ありがとうございました。

これから「御仏の世界で我われを見守ってください」合掌

第24代会長 江間誠一郎先生の逝去を悼む

マスターフェロー 佐藤吉則

江間誠一郎先生は2019年（令和元年）12月26日の早朝に急逝されました。

26日に江間フェローが逝去されたという突然の悲報を小坂橋 誠フェローより知らされ、あまりにも突如な訃報なのでしばし絶句してしまいました。江間フェローご夫妻およびお孫様とは、12月7日に帝国ホテルで開催されました年末集会で、同じテーブルで親しく懇談させていただいてから日も浅かったので、驚きもひとしおでした。

江間フェローは、晩年には婦唱夫随を实践され、人柄は親分肌、繊細で豪放磊落、公正・公平な判断を下す先生、読書家、すべての分野について探求心・探究心旺盛な先生、健啖家、紫煙をくゆらせながらの愛飲家でした。

江間フェローのICDにおける



功績を辿りますと、1990年に佐藤貞勝先生が国際会長に就任され、シカゴで開催された懇親会に江間フェローも参加され、会場の壇上に飾られたICDのKeyを模したエンブレムを目にされ、帰国後に同様のエンブレムおよびリボンを小坂橋フェローに依頼して日本部会でも作成され、今日でも活用されております（写真左）。第20代会長・西連寺愛憲先生および第21代会長・石川達也先生の事務局長時代には『咬合』という大きなテーマで冬期学会の運営に尽力され、日本部会のホームページの開設にも尽力されました。2009年に横浜で国際理事会が開催された際には、横浜在住のフェローの皆様とともに理事会および懇親会開催に尽力されました。

江間先生が会長時代になられてからは、日本部会創立50周年の記念事業を成功裏に行い、2007年に将来構想委員会、2008年に改革5ヵ年計画委員会を立ち上げて日本部会の改革を推進されました。会長を退任した後は、2008年にマスターフェローの称号を授与されました。第25代会長齋藤 毅先生の時代には、会長を補佐して日本部会の法人化に尽力されました。

以上のような足跡を偲び、“日本部会の巨星墜つ”の現実を噛みしめ、ご冥福をお祈り申し上げながら拙文を記しました。